

# 特 集

わたしたちの生活や経済・社会は、安定的で豊かな環境の基盤の上に成立しています。地球温暖化等に起因する気候変動、プラスチックごみによる海洋汚染などの深刻化する環境問題は、地球全体のグローバルな課題であると同時に、わたしたちの生活とも密接に関連する課題でもあります。

福岡市は、「豊かな自然と歴史に育まれ、未来へのちつなぐまち」の実現に向けて、市民・事業者の皆様と共に取組みを推進していきます。

- 1 地球温暖化問題
- 2 海洋プラスチックごみ・食品ロス問題
- 3 福岡市の取組み

## SDGs（持続可能な開発目標）

SDGs(Sustainable Development Goals)は、2015年9月に国連総会において採択された世界共通の目標で、持続可能な世界の実現のために、環境のみならず、貧困、飢餓、健康・福祉などの課題について、2030年までに達成すべき17の目標を掲げています。

「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すとともに、環境・経済・社会の統合的向上を打ち出しています。



※各目標の説明は、本編20ページに掲載しており、特集記事には、関連する主なSDGsの目標を掲載しています。

## 1. 国内外の状況

### (1) 地球温暖化がもたらす影響

近年、豪雨や猛暑などの気象災害が国内外で激甚化・頻発化し、多くの被害が発生しています。地球温暖化は、このような気象災害の一因とされており、地球温暖化の進行に伴い、今後、気象災害のリスクがさらに高まることが予想されています。

また、地球温暖化は、気候変動を通じて、熱中症などによる健康被害や、農作物の収穫や漁獲量の減少による食糧不足、生態系の損失など、日常生活や経済・社会活動に大きな影響を与えることが懸念されています。

このような状況は、もはや単なる「気候変動」ではなく、「気候危機」とも言われています。

### 【気候変動による将来の主要なリスク】



出典) IPCC第5次評価報告書  
全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jccca.org/>) より

### (2) 地球温暖化による危機への対応

この危機に対応するためには、地球温暖化の主たる要因である、大気中の二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスを削減することが必要です。

世界は、2015年に採択された持続可能な開発目標(SDGs)を掲げる「持続可能な開発のための2030アジェンダ」や「パリ協定」などの国際的合意を契機に、温室効果ガス排出削減の取組みを進めています。

日本では、2020年10月に、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち脱炭素社会の実現を目指すこと」を宣言しました。

また、国内においては、環境省の呼びかけで、2050年に二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることをめざす「ゼロカーボンシティ」を表明する自治体が増えています。2020年12月3日時点で、181の自治体(24都道府県、99市、2特別区、46町、10村)が表明を行い、地域の特性に応じた取組みを行っています。

福岡市においても、2020年2月に、「2040年度 温室効果ガス排出実質ゼロ」を目指し、脱炭素社会の実現にチャレンジすることを表明しました。

### パリ協定

2015年にフランス・パリで開催されたCOP21(国連気候変動枠組条約締約国会議)で採択された協定

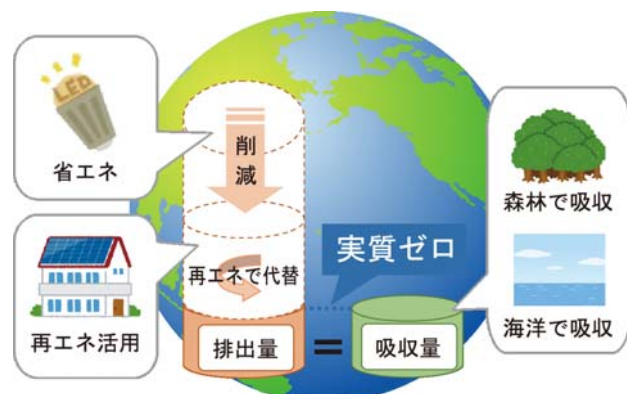
#### 【パリ協定での長期目標】

- ・世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求する。
- ・21世紀後半に、温室効果ガスの人為的な排出と吸収源による除去の均衡(脱炭素)を達成する。

### コラム

### 「脱炭素」とは？

LED照明などのエネルギーの効率的な利用(省エネ)や太陽光などの再生可能エネルギーの導入・活用により、温室効果ガスの排出量をできるだけ減らし、最終的な排出量と森林などによる吸収量を等しくして、プラスマイナスゼロ(実質ゼロ)の状態にすることです。



▲温室効果ガス排出量実質ゼロ(イメージ)

## 2. 福岡市の温室効果ガスの状況

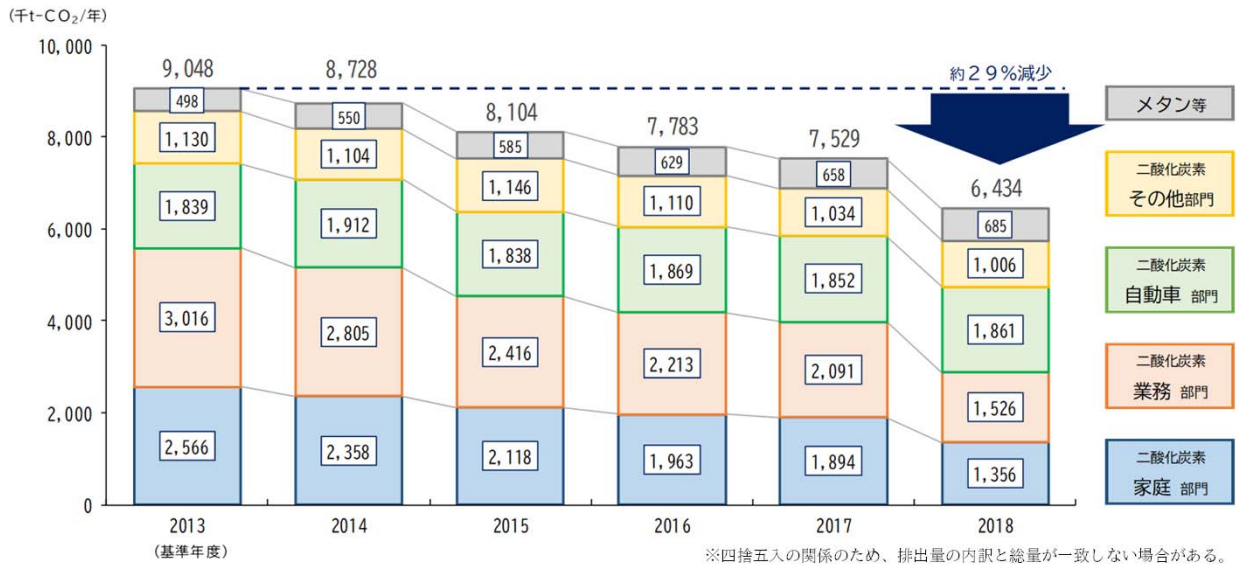
福岡市は、2016年12月に「福岡市地球温暖化対策実行計画」を策定し、市民・事業者の皆様と連携しながら、低炭素のまちづくりに向けた取組みを進めてきました。

### ● 温室効果ガス排出量の推移（福岡市域）（資料：福岡市）

温室効果ガスの排出量は、2013年度（基準年度）と比べ約29%減少しています。

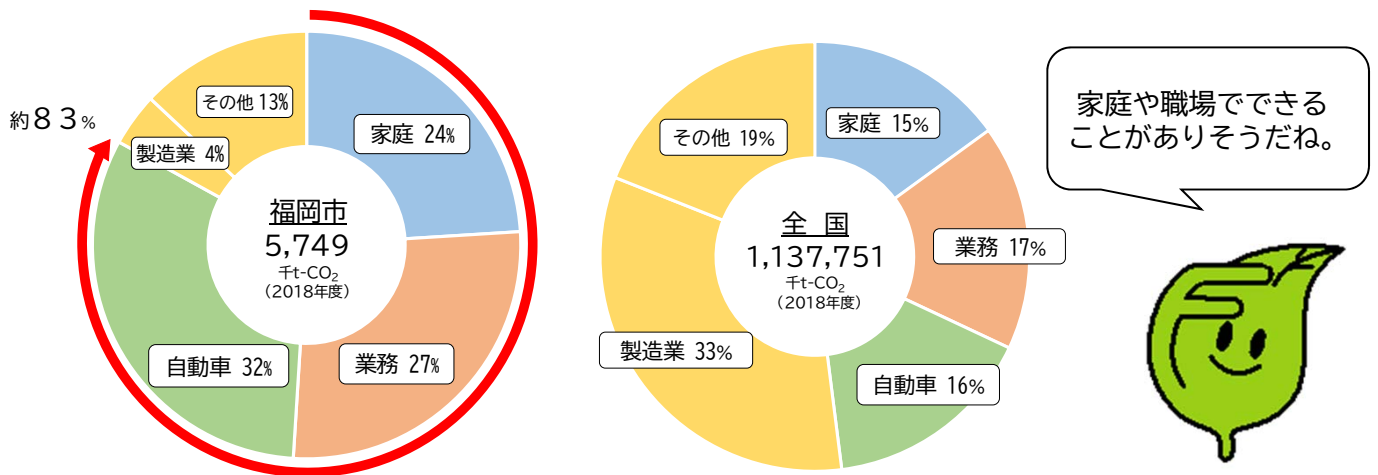
（部門別の状況）

家庭部門：約47%減少 業務部門：約49%減少 自動車部門：約1%増加



### ● 部門別二酸化炭素排出量（2018年度）（資料：福岡市）

二酸化炭素排出量は、家庭・業務・自動車の3部門で約83%を占めています。（全国は約48%）



## 3. 脱炭素社会の実現に向けたチャレンジ

地球温暖化に関する国内外の状況を踏まえ、福岡市においても、低炭素から脱炭素へと、積極的に取組みを進めていくこととし、温暖化対策を総合的・計画的に推進するため、2020年度に「福岡市地球温暖化対策実行計画」の改定に着手しました。

#### 【わたしたちが今できること】

- ・家電を買い替える時は省エネ型を選ぶ
- ・太陽光発電などの再生可能エネルギーを利活用する
- ・公共交通や自転車を利用する
- ・森林の保全活動などに参加する

**チャレンジ！ 脱炭素社会**

地球温暖化を進行させない、  
温室効果ガスを増やさないまちへ

環境シンボルキャラクター「エコッパ」



### 1. 国内外の状況

#### (1) 海洋プラスチックごみ

プラスチックは、私たちの生活を支える必需品である一方で、海洋に流出したプラスチックごみによる海洋汚染が、地球規模で広がっています。海洋プラスチックごみの増加は、生物に直接的な影響を与えたり、食物連鎖を通じて生態系に影響を及ぼすことが懸念されています。

2016年世界経済フォーラム（ダボス会議）では、このまま対策をとらなければ、「2050年には海洋中のプラスチックの重量が魚の重量を超える」との試算が報告されました。

海洋プラスチックごみの削減は、国際的な連携のもとで取り組みが始まっており、SDGs目標14においては、2025年までに、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減すること等が盛り込まれています。

また、2019年6月に開催された主要20カ国・地域首脳会議（G20大阪サミット）では、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染ゼロを目指す「大阪ブルー・オーシャンビジョン」が共有されました。

日本では、2019年5月に「プラスチック資源循環戦略」が策定されました。2020年7月にスタートした「レジ袋有料化」は、この戦略に基づく取り組みのひとつで、国民一人ひとりが、プラスチックごみ問題について考え、レジ袋だけでなく、大量消費型のライフスタイルを見直し、プラスチックの過剰使用の削減や資源としての有効利用につなげていく契機となっています。



▲海岸に漂着したプラスチックごみ

#### (2) 食品ロス

まだ食べられるのに捨てられてしまう食品、いわゆる「食品ロス」が世界中で問題となっています。世界の食品廃棄量は、年間約13億トンと推計されており、SDGs目標12においても、2030年までに世界全体の一人当たりの食料廃棄を半減させること等が盛り込まれ、食品ロスの削減は、重要な課題となっています。

日本においても例外ではありません。日本の食品ロス量は、年間約612万トン（2017年度）と推計されており、これは、飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量（2018年で約390万トン）の1.6倍に相当します。

このような状況を踏まえ、日本では、2019年10月に、「食品ロスの削減の推進に関する法律」が施行され、国、地方公共団体、事業者、消費者等の多様な主体が連携し、食品ロスの削減を推進していくこととされました。食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着を図っていくこと、また、計画的な買い物を心掛け、まだ食べることができる食品については、廃棄することなく、できるだけ食品として活用していくことが重要であるとされています。



▲燃えるごみに入っていた食品

#### コラム 発生抑制（リデュース）の重要性

資源・エネルギー・食料の供給には限界があり、その大部分を海外に依存する日本にとって、これらの安定的な確保は、今後重要な課題となります。2019年3月の国連広報センター報告書では、「世界人口が、2050年までに96億人に達するとすれば、現在のライフスタイルを維持するためにほぼ3つの惑星が必要になる」とされています。

日本では、ごみ減量をはじめとする3Rと適正な処分により、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り低減する「循環型社会」の形成に向け、取り組みを進めてきました。持続可能な社会を実現するためには、3Rのなかでも、特に、最も環境への負荷が少ない発生抑制（リデュース）に取り組むことが重要であり、リデュースの取り組みのひとつである「リフューズ（断る）」は、わたしたちが最優先すべき取り組みです。

3R（スリーアール）とは、

- ① Reduce（リデュース）：発生抑制（減らす）
  - ② Reuse（リユース）：再使用（繰り返し使う）
  - ③ Recycle（リサイクル）：再生利用（再資源化する）
- のRで始まる3つの言葉の頭文字をとったものです。

Refuse(リフューズ):  
いらぬものはもらわないこと

マイバックを持っているので、袋はいりません。



## 2. 福岡市のごみ処理の状況

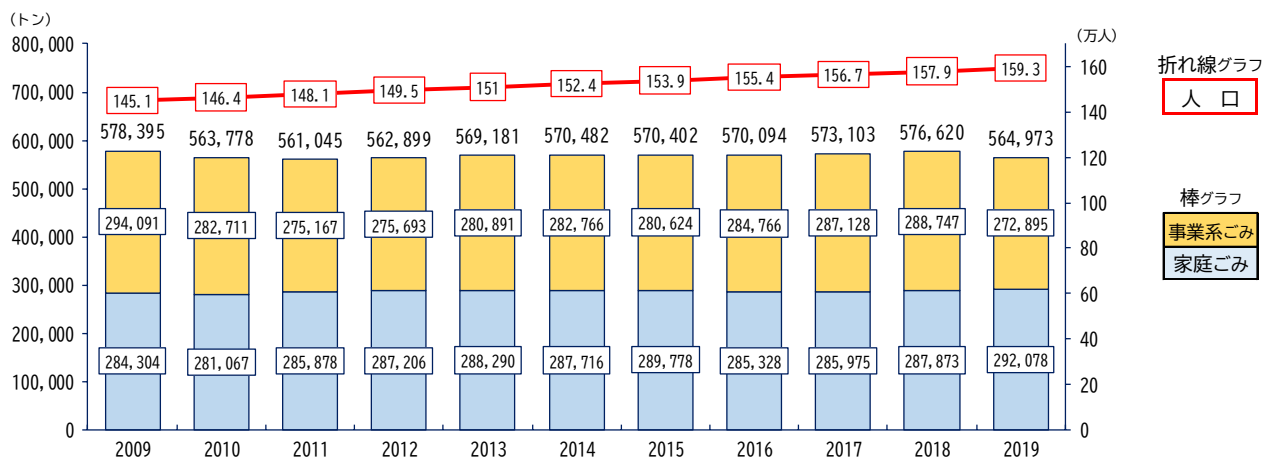
福岡市は、2011年12月に「新循環のまち・ふくおか基本計画（第4次福岡市一般廃棄物処理基本計画）」を策定し、「元気が持続する循環のまち・ふくおか」をテーマに、市民・事業者の自主的・自発的な取組みを支援することにより、環境保全と都市の発展を踏まえた「福岡式循環型社会システム<sup>(※)</sup>」の構築を推進しています。

### ● ごみ処理量の推移（資料：福岡市）

人口や事業所数が増加する中、市民や事業者のごみ減量をはじめとする3Rの取組みにより、市民1人1日あたりの家庭ごみ処理量（原単位）は減少傾向にあり、ごみ処理量はほぼ横ばい程度で推移しています。

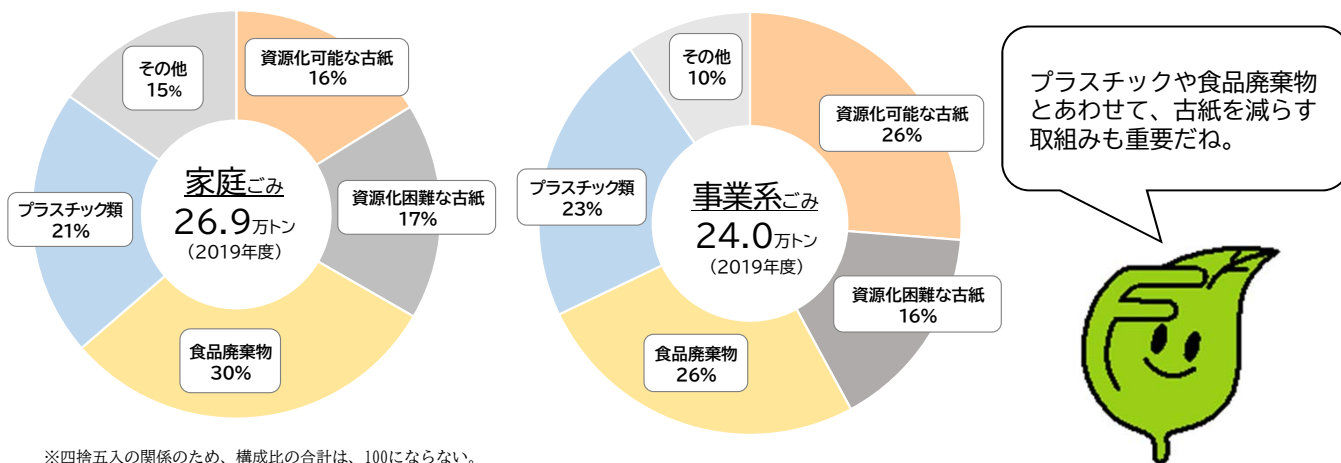
（単位：g/人・日）

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
家庭ごみ原単位	537	526	528	526	523	517	515	503	500	499	501



### ● 可燃ごみの組成分析（2019年度）（資料：福岡市）

可燃ごみのうち、古紙・食品廃棄物・プラスチックごみが、多くの割合を占めています。



プラスチックや食品廃棄物とあわせて、古紙を減らす取組みも重要だね。



## 3. 新たな課題への対応

福岡市は、人口や事業所数の増加など現計画策定後の状況の変化や世界的にも問題となっているプラスチックごみや食品ロスなどの新たな課題に対応するため、2019年度に「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」の策定に着手しました。

### 【対応の方向性】

- ・「商業都市」「アジアの交流拠点都市」という都市特性を踏まえた循環型社会づくり
- ・産学官連携によるイノベーションの創出や多様なコミュニティの取組みによる地域循環共生圏の創造
- ・持続可能な社会の実現に向けた3Rを実践するライフスタイルやビジネススタイルへの転換
- ・災害時にも対応できる処理体制の構築や海洋プラスチックごみ対策等、適正処理の更なる推進

### ※ 福岡式循環型社会システム

ごみ問題を市民・事業者が自らの問題と捉え、市民・事業者・行政などの適切な役割分担のもとに、市民一人ひとりや各事業者の活力を活かし、自主性と自発性を尊重し、循環型社会を構築していくという考え方

### 3 福岡市の取組み

福岡市では、脱炭素社会の実現、さらなるごみ減量に向けて各種取組みを実施しています。

#### 省エネ行動に取り組もう！ 再生可能エネルギーを導入しよう！



#### ■ECOチャレンジ応援事業

家庭で電気やガスを節約すること、環境イベントへ参加して環境について学ぶことなどの省エネ行動の取組みに対し、交通系ICカードで使えるポイントを付与しています。



#### ■次世代自動車普及促進事業

電気自動車・プラグインハイブリッド自動車の購入経費や、電気自動車等の充電設備設置経費の一部を助成しています。

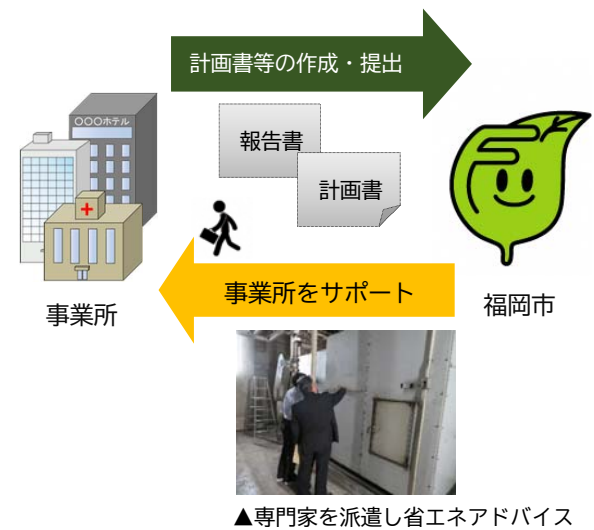
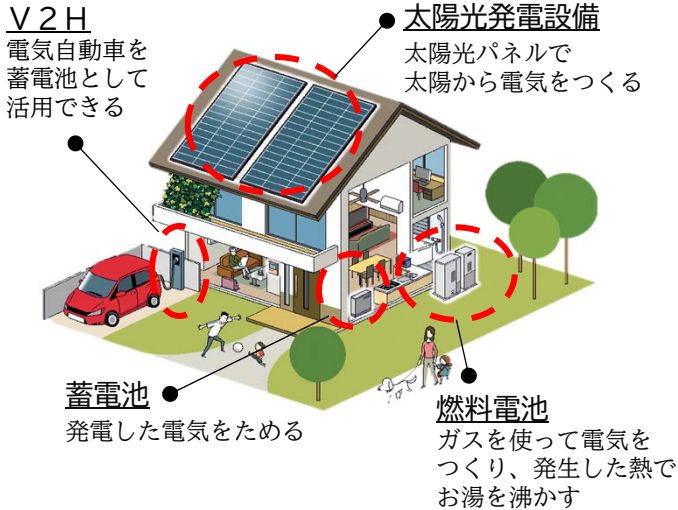


#### ■住宅用エネルギーシステム導入促進事業

再生可能エネルギーを活用したり、省エネルギーを推進したりする設備を設置する際の一部を助成しています。

#### ■事業所省エネ計画書制度

市と事業者が計画書等を通してコミュニケーションを取りながら、事業所の省エネ・省CO<sub>2</sub>を促進しています。



#### ■メガソーラー発電の導入促進

市有施設において、リース方式、土地貸し方式により大規模太陽光発電を導入しています。

施設	発電開始	発電出力
大原メガソーラー発電所 (埋立場内)	2013年2月	1,000kW
蒲田メガソーラー発電所 (埋立場内)	2014年3月	1,000kW
青果市場「ベジフルスタジアム」	2016年2月	1,000kW
水処理センター (西部・新西部)	2016年4月	2,320kW
蒲田第2メガソーラー発電所 (埋立場内)	2019年11月	1,199kW



▲大原メガソーラー発電所





## ■古紙の資源化促進

- ・家庭（地域集団回収・拠点回収）

「資源物回収場所早わかりマップ」を作成し、回収情報をわかりやすく提供しています。



▲市内全域版「福岡市Webマップ」対応

- ・事業者

2020年10月から新たに古紙の分別区分を追加し、排出事業者への啓発等により資源化を推進しています。



▲広報用リーフレット

## ■食品ロスの削減

- ・家庭

出前講座や啓発キャンペーンを実施し、食品の計画的な購入や使い切り、フードドライブ等の取組みを推進しています。



▲フードロス削減アクション

- ・事業者

「みんなでフードロスゼロ！おいしい福岡エコ運動」において、飲食店や宿泊施設での食べ残し削減や食品小売店での売りきりの取組みを推進しています。



- ・エコ運動協力店登録数  
：598店（2020年11月現在）

## ごみを減らして、自然の豊かさを守ろう！

### ■海洋プラスチックごみ対策

- ・ラブアース・クリーンアップ

1992年5月に福岡市で開催された「ローマ・クラブ福岡会議イン九州」を契機に、この会議のテーマである“地球環境と地域行動”の実践活動として、市民・企業・行政が協力して開始した地域環境美化活動です。

2019年の海岸清掃では、集めたごみのうち、食品容器やペットボトルなどのプラスチックが約9割を占めていました。



福岡市参加者  
約4万人

▲ラブアース・クリーンアップ2019（海岸清掃）

### ■プラスチックごみの発生抑制

- ・マイボトルの利用促進

「マイボトルデザインコンテスト」の実施や「給水スポット」の設置を進めるなど、マイボトルの利用を促進しています。



▲給水スポット（イメージ）

持続可能なライフスタイルって何だろう？

家庭で、職場で、地域で、未来につながる行動を起こしてみよう。

